

霧島山（えびの高原（いおうやま硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

本日（26日）18時15分頃に硫黄山の西側500m付近からごく小規模な噴火が発生し、乳白色の噴煙が火孔より200m以上に上がりました。噴火した火孔は、20日に確認された県道1号線付近の噴気域です。この噴火は18時26分頃まで継続しました。

【防災上の警戒事項等】

えびの高原の硫黄山から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾及び火砕流²⁾に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾（火山れき³⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図2）

本日（26日）18時15分頃に硫黄山の西側500m付近からごく小規模な噴火が発生し、乳白色の噴煙が火孔より200m以上に上がりました。この噴火に伴う大きな噴石の飛散は確認されていません。噴火した火孔は、20日に確認された県道1号線付近の噴気域です。

この噴火は18時26分頃まで継続しました。

・地震や微動の発生状況（図3）

硫黄山近傍に設置している地震計では、26日18時15分頃に発生した噴火に伴う振幅の増大はみられておらず、空振も観測されていません。

・地殻変動の状況（図4）

えびの高原（硫黄山）周辺の傾斜計⁴⁾では、噴火に伴う傾斜変動は観測されていません。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十kmから時速百km以上、温度は数百℃にも達することがあります。
- 3) 霧島山では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 4) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1マイクロラジアンは1km先が1mm上下するような変化です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火の様子（えびの高原監視カメラによる）
（4月26日18時16分）

本日（26日）18時15分頃に硫黄山の西側500m付近からごく小規模な噴火が発生し、乳白色の噴煙が火孔（赤矢印）より200m以上に上がりました。この噴火に伴う大きな噴石の飛散は確認されていません。噴火した火孔は、20日に確認された県道1号線付近の噴気域です。

この噴火は18時26分頃まで継続しました。

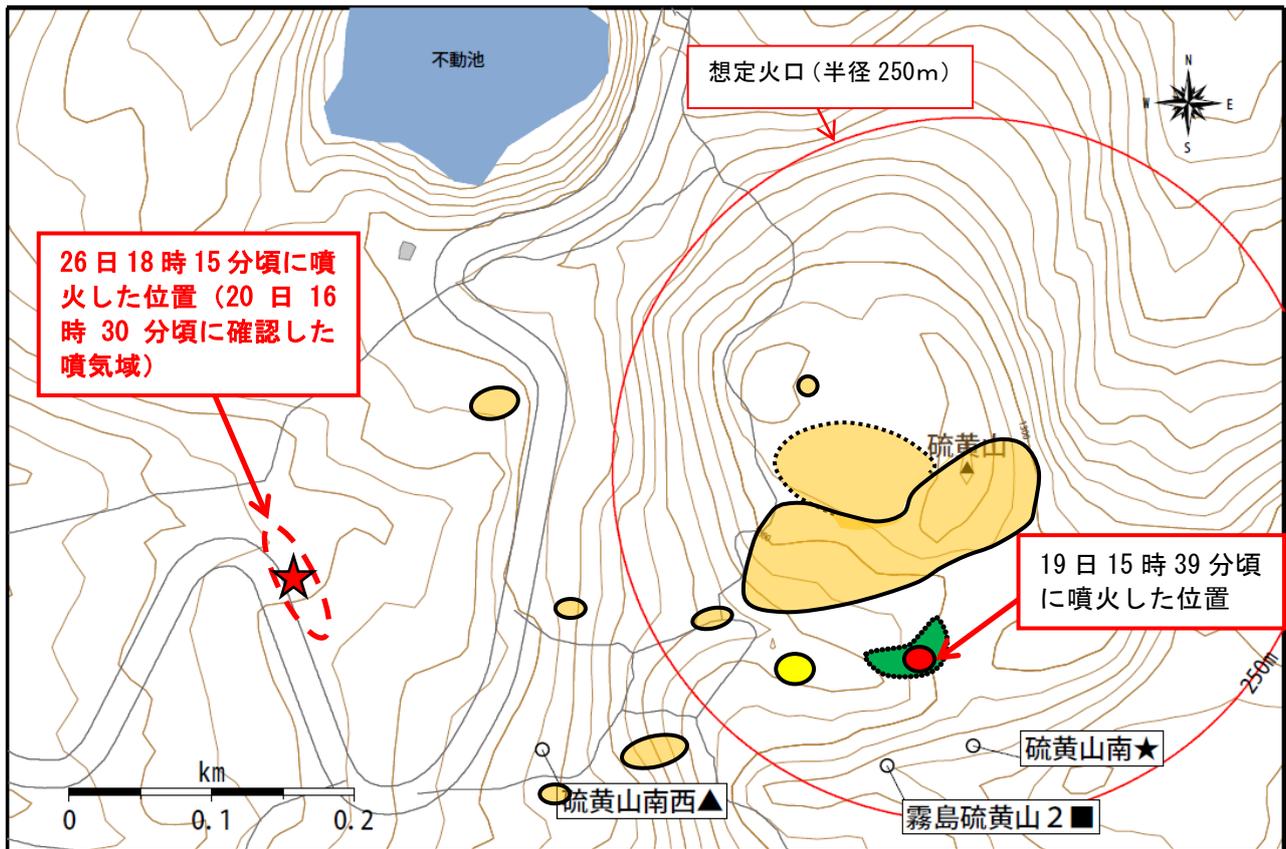


図2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火位置及び主な熱異常域

- ・ 4月9日に確認した噴気域及び熱異常域を●で示します（橙色は主な熱異常域及び噴気域）。
- ・ 19日15時39分頃に発生した噴火位置を●で、噴火以降に拡大した噴気域を●で示します。
- ・ 20日16時30分頃に確認した噴気域を赤破線で示します。
- ・ 26日18時15分頃に発生した噴火位置を★で示します。
- ・ ●と●の領域内で活発な泥水の噴出がみられています。

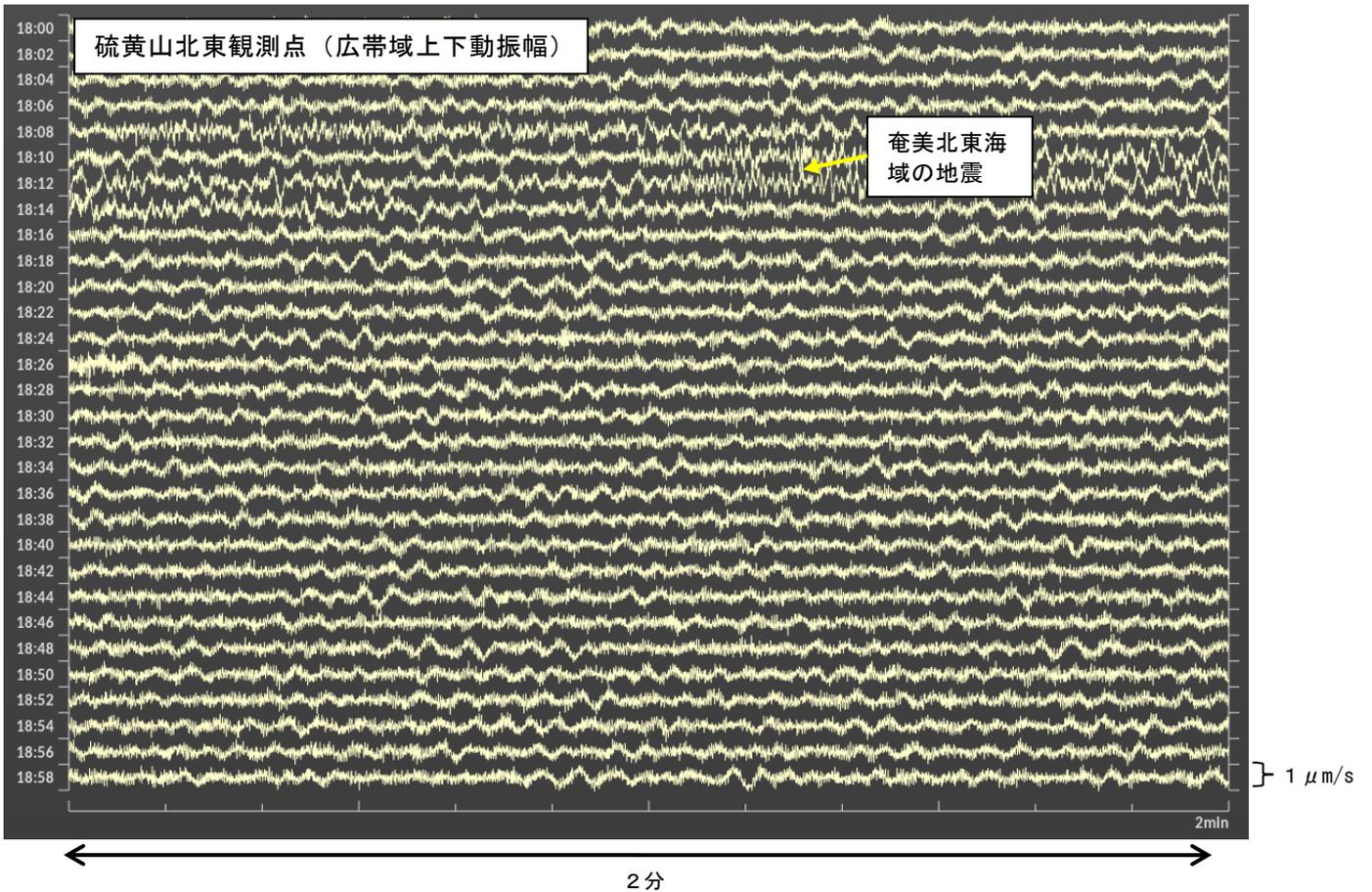


図3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）地震計による震動状況（4月26日18時～19時）
（硫黄山北東観測点）

硫黄山近傍に設置している地震計では、26日18時15分頃に発生した噴火に伴う振幅の増大はみられていません。

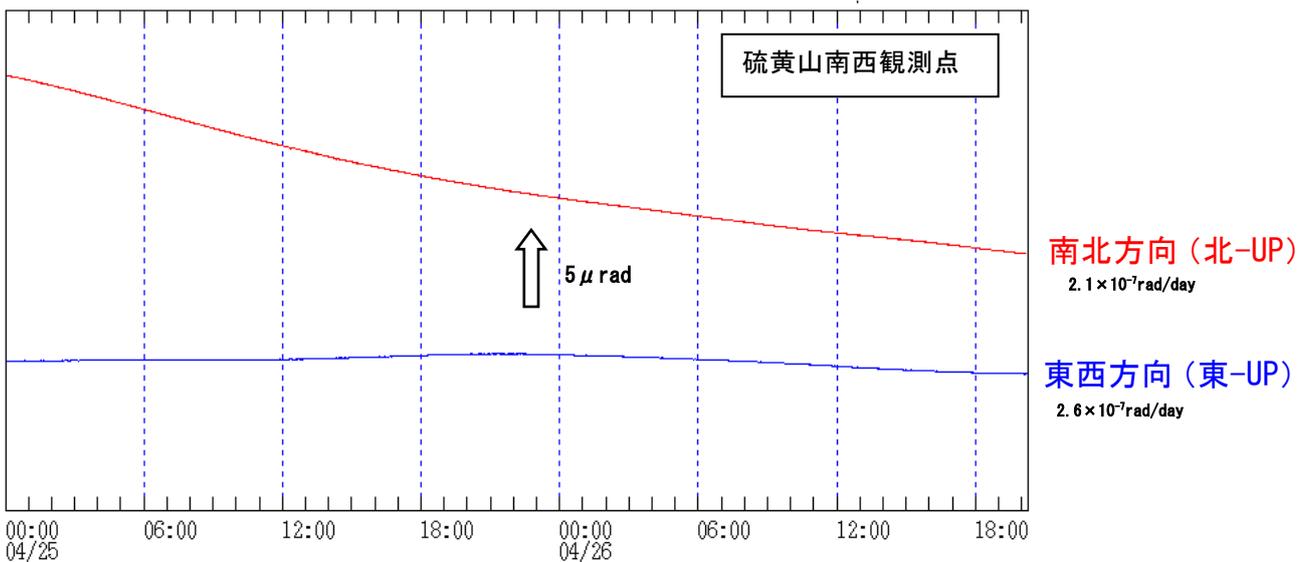


図4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）傾斜計の変動（分値）（4月25日～26日20時）
（硫黄山南西観測点）

えびの高原（硫黄山）周辺の傾斜計では、噴火に伴う傾斜変動は観測されていません。

*硫黄山南西観測点の傾斜変動は、南北方向 2.1×10^{-7} rad/day、東西方向 2.6×10^{-7} rad/day のトレンド補正を行っています。

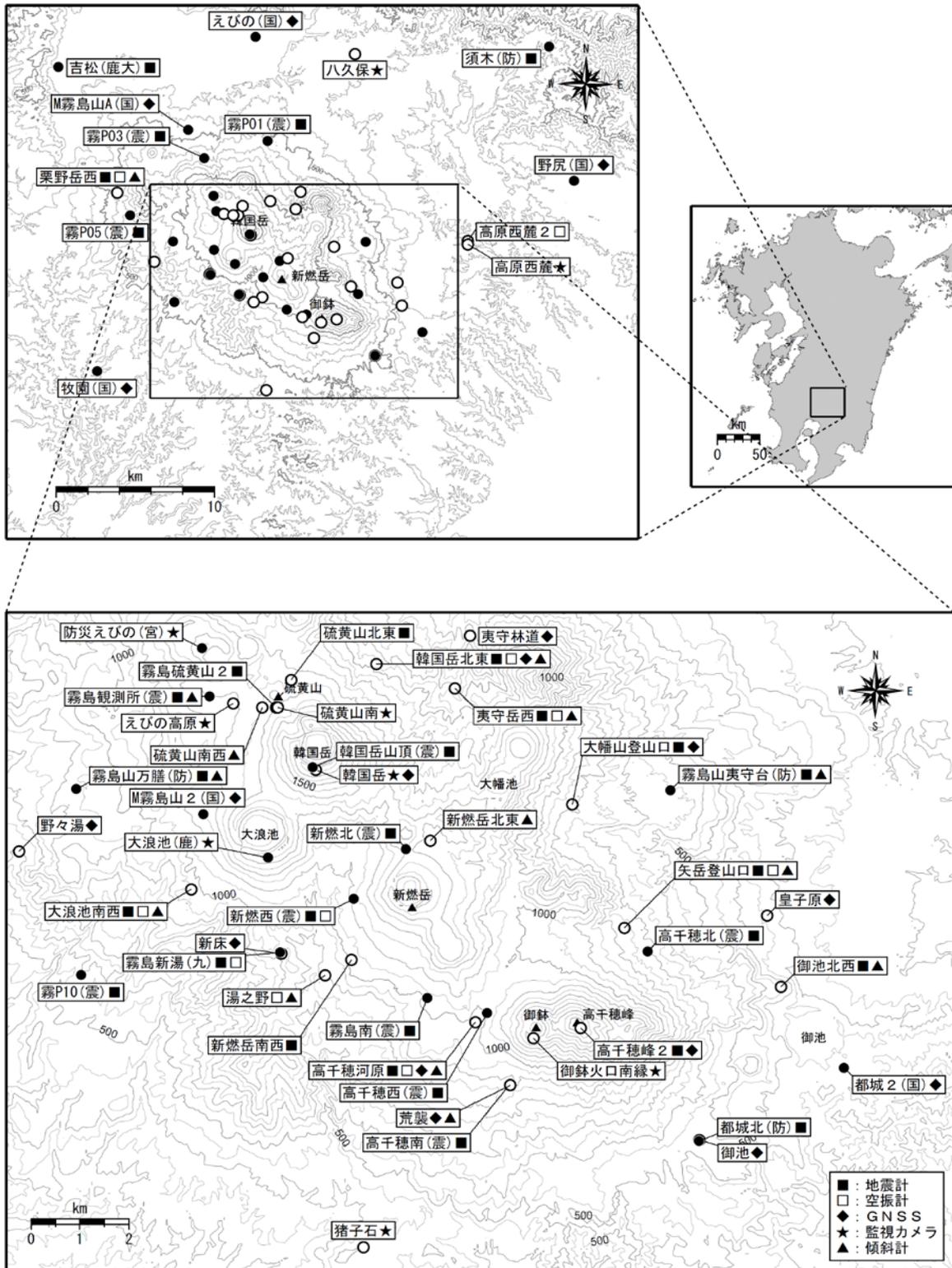


図5 霧島山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所
 (九)：九州大学、(鹿大)：鹿児島大学、(宮)：宮崎県、(鹿)：鹿児島県